



台湾観光局・公益社団法人神奈川県観光協会・チャイナ エアライン・江ノ島電鉄  
**4者での観光プロモーション協定を記念して、**  
**ラッピング電車・バスを運行します**

小田急グループの江ノ島電鉄株式会社（本社：神奈川県藤沢市 代表取締役社長：天野 泉）では、2014年7月23日（水）に、台湾観光局（台湾観光協会東京事務所）、公益社団法人神奈川県観光協会、チャイナ エアライン日本支社、江ノ島電鉄株式会社の4者で「観光プロモーション協定」を締結します。

江ノ島電鉄では、2013年4月23日に台湾鐵路管理局の「平溪線」と、観光連携の協定を締結し、この協定により、江ノ電と平溪線の日一周遊券による相互利用を開始いたしました（2013年5月1日より）。この観光連携により、相互の鉄道利用者は4,327名を数え、両鉄道沿線の観光地に対する認知度も高まってきていることから、当初1年間で予定していた日一周遊券による相互利用を、今年度も継続することとなりました。

二年目を迎えるにあたり、昨年以上の利用者の獲得をめざし、台湾観光局（台湾観光協会東京事務所）と公益社団法人神奈川県観光協会、そして日本と台湾の空の交通機関であるチャイナ エアラインの参画によるプロモーションの強化を目的として、ラッピング電車・バスを運行します。

詳細は以下の通りです。

## 記

**●ラッピング電車・バスの運行**

実施日：2014年7月23日（水）から

対象：江ノ島電鉄の鉄道車両（1編成）と、羽田空港と大船・鎌倉・藤沢を結ぶ羽田空港線路線バス（1車両）

概要：日一周遊券による交流を実施している「江ノ電」と「平溪線」の鉄道車両の写真や、台湾のシンボル「台北101」と湘南のシンボル「江の島シーキャンドル」といったタワーの外観、台湾の「弥勒大仏」と鎌倉「高德院の大仏」といった信仰のシンボルなど観光に密接なテーマを対照的にラッピングしました。中央には台湾と神奈川県の地形を描き、両地域を虹と共に中華航空が結ぶことで、キャッチフレーズでもある「同じだけ違う。違うけど同じ。台湾と日本に会いに行こう」を表現しました。この協定用にデザインしたシンボルマークは、電車とバスのヘッドマークとして、掲出いたします。なお、ラッピング電車車内では、7月中、東京国立博物館にて6月24日～9月15日まで開催される特別展「台北 国立故宮博物院—神品至宝—」を紹介いたします。

以上

## ▼シンボルマーク



## ▼ラッピング電車イメージ

